

## 《奏功事例》

### ●平成 24 年 10 月の事例

ガスコンロのスイッチを切りにもどしたと思い込み、外出してしまったために、鍋が焦げて発煙。

隣人が住宅用火災警報器の警報音に気づき煙を確認、119 番通報、ほぼ同時に煙に気付いた近くの人が家人に連絡し、駆けつけた家人がガスコンロのスイッチを切ったために、火災には至らなかった。

### ●平成 24 年 8 月の事例

一人暮らしの高齢者が鍋に火を掛け、外に出てしまったために、鍋が焦げて発煙。

一人暮らし高齢者は近所の人（避難補助者）と連動型の住宅用火災警報器を取り付けていた。近所の方は連動型の住宅用火災警報器の警報音に気付いて、急いで高齢者宅に駆けつけ、ガスコンロのスイッチを切ったために、火災には至らなかった。

### ●平成 24 年 3 月の事例

鍋に火を掛け、居間でテレビを観ていたが、住宅用火災警報器の警報音に気付いて、鍋は焦げたがガスコンロのスイッチを切ったために、火災には至らなかった。

### ●平成 24 年 2 月の事例

鍋に火を掛け、別部屋で作業中、住宅用火災警報器の警報音に気付いて、鍋は焦げたがガスコンロのスイッチを切ったために、火災には至らなかった。

### ●平成 22 年 12 月の事例

鍋に火を掛け、外出してしまったため、鍋が焦げて発煙。

隣人 2 人が住宅用火災警報器の警報音に気づき、一人は 119 番通報、一方がガスコンロのスイッチを切ったために、火災には至らなかった。

### ●平成 22 年 8 月の事例

ガスコンロに火をつけたまま別場所にいたが、住宅用火災警報器の警報音に気付いて、ガスコンロのスイッチを切ったために、火災には至らなかった。